

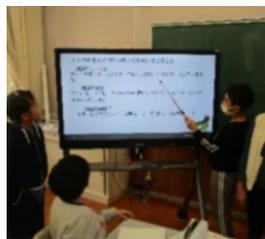
【5年算数科「平均ーならした大きさを考えようー】

算数科「平均」では、平均を求めることができるようにするだけでなく、平均の考えを日常生活に活用しようとする態度を育てることをねらいとした学習をしました。

単元の導入では、おはじきのつかみ取りをして、6人の平均を求める活動をしました。実際におはじきを操作することで、「ならず」ということを、体験を通して理解することができました。

また、単元の終末には、一輪車のタイヤを一回転させたときに進む長さを測定し、平均を求める活動をしました。実際に測定する活動をしたことで、平均が日常生活の中でも使えるということを実感することができました。

この単元が終わった後には、「テストの平均を出してみました。」など、日常生活に活用しようとする子どもも増えました。



【4年社会科「くらしの中に伝わる願い】

社会科では、長崎の伝統的な行事や祭り、文化財について学習しました。

この単元では、長崎くんちの歴史や関わる人の思いを知り、「くんちを未来につなげていくために自分たちにできること」について話し合いました。

子どもたちは、人手不足などの問題を解決するために、インターネットを使った呼びかけと申込フォームの作成、若い世代向けの体験会、運動会での「長崎らしさ」取り入れた出し物など、くんちに興味をもたせるための具体的な方法を考えました。理由を明確にして話すことで、考えに説得力をもたせることができました。



【3・4年総合「伝えよう！外海の魅力】

自分たちで育てたもち米とさつまいもを使った「愛のこもったかんころ餅」がついに完成しました。

今回も師匠の協力のもと、この学校でしかない貴重な体験をすることができました。白と杵は「昔ながらの方法で作りたい。」という子どもたちの願いを叶えるために、師匠が特別に用意してくださいました。

子どもたちは、つきたてのかんころ餅を食べながら、一から作ることの大変さを実感するとともに、喜びと達成感を味わうことができました。

また、この学習を通して、改めてふるさと外海のよさを実感していました。